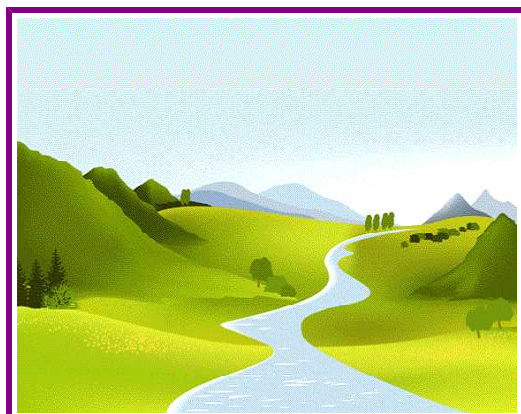


# めぐみイエス・キリスト教会

2020年8月30日(日)第五主日礼拝  
週報「通算第521号」



## 2020年標題聖句

第I テサロニケ5章16節～18節

《いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2020年8月30日 第五主日礼拝 午前10時

司会 鈴木竜実牧師 奏楽 佐野みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌254「心にあるこの安きを」 p. 394

【交読文】 No.58 コリント人への手紙Ⅰ 第15章 p. 926

【賛美Ⅱ】 新聖歌428「キリストには代えられません」p. 690

【使徒信条】 【主の祈り】 【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル賛美No.2「あなたと共にいつまでも」

【聖書朗読】 使徒の働き4章15節～22節 (2017新約p. 238下段)

【礼拝説教】 《誰に従うべきなのか》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※聖書箇所 使徒の働き4章15節～22節

4:15 彼らは二人に議場の外に出るように命じ、協議して言った。

4:16 「あの者たちをどうしようか。あの者たちによって著しいしるしが行われたことは、エルサレムのすべての住民に知れ渡っていて、われわれはそれを否定しようもない。

4:17 しかし、これ以上民の間に広まらないように、今後だれにもこの名によって語ってはならない、と彼らを脅しておこう。」

4:18 そこで、彼らは二人を呼んで、イエスの名によって語ることも教えることも、いっさいしてはならないと命じた。

4:19 しかし、ペテロとヨハネは彼らに答えた。「神に聞き従うよりも、あなたがたに聞き従うほうが、神の御前に正しいかどうか、判断してください。

4:20 私たちは、自分たちが見たことや聞いたことを話さないわけにはいきません。」

4:21 そこで彼らは、二人をさらに脅したうえで釈放した。それは、皆の者がこの出来事のゆえに神をあがめていたので、人々の手前、二人を罰する術がなかったからである。

4:22 このしるしによって癒やされた人は、四十歳を過ぎていた。

### ●ポイント1. 最高法院(最高議会)サンヘドリンにおいて

#### ※使徒の働き6章12節・15節および7章55節～58節および8章1節

6:12 また、民衆と長老たちと律法学者たちを扇動し、ステパノを襲って捕らえ、最高法院に引いて行った。

6:15 最高法院で席に着いていた人々が、みなステパノに目を注ぐと、彼の顔は御使いの顔のように見えた。

7:55 しかし、聖霊に満たされ、じっと天を見つめていたステパノは、神の栄光と神の右に立っておられるイエスを見て、

7:56 「見なさい。天が開けて、人の子が神の右に立っておられるのが見えます」と言った。

7:57 人々は大声で叫びながら、耳をおおい、一斉にステパノに向かって殺到した。

7:58 そして彼を町の外に追い出して、石を投げつけた。証人たちは、自分たちの上着をサウロという青年の足もとに置いた。

8:1 サウロは、ステパノを殺すことに賛成していた。その日、エルサレムの教会に対する激しい迫害が起こり、使徒たち以外はみな、ユダヤとサマリアの諸地方に散らされた。

### ●ポイント2. 大祭司カヤパが言う「著しいしるし」とは？

#### ※使徒の働き3章1節～9節「『美しの門』において」(新約p.236下段左側)

### ●ポイント3. 私たちは誰に従うべきか？

#### ※ローマ人への手紙13章1節「使徒パウロの勧めから」(新約p.318下段)

13:1 人はみな、上に立つ権威に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられているからです。

#### ※ヨハネの福音書8章12節「主イエス様の言葉から」 (新約p.195下段)

8:12 イエスは再び人々に語られた。「私は世の光です。私に従う者は、決して闇の中を歩むことがなく、いのちの光を持ちます。」

## ◎先週のメッセージの概要【知っていただきたい】

《かつて主イエスが、たった一人で立たされた最高法院の弁明席に、今度はペテロとヨハネが立たされました。大祭司カヤパは尋問します。

「何の権威によって、また誰の名によってあのようなことをしたのか。」と。

主イエスの約束された通り、ペテロは聖霊に満たされ語り始めました。「民の指導者たち、並びに長老の方々。私たちが今日取り調べを受けているのが、一人の病人への良いわざと、この人が何によって癒やされたのかということの為なら、皆さんも知っていただきたい。この人が治ってあなたがたの前に立っているのは、あなたがたが十字架につけ、神が死者の中からよみがえらせた、ナザレ人イエス・キリストの名によるのです。」

『ナザレのイエス』、実は、これは中傷と皮肉を込めた呼び名なのです。

ゲッセマネにおいて、議会がローマ兵を率いて捕らえに来た時です。「誰を捜しているのか。」「ナザレ人イエスを。」「私がそれです。」

主がそう言われた時、彼ら全員が神の力によって、倒されたのです。

そしてさらに、ピラトが書いた罪状書きには、明確に「ユダヤ人の王、ナザレ人イエス」と書かれ、しかも当時の共通語であるヘブル語、ギリシャ語、ラテン語で書かれていました。ここからも分かります様に、ナザレのイエス、この名こそが神様の名前であり、人類のメシヤの名前なのです。

さらにペテロは、詩篇118篇を引用して説明します。『あなたがた家を建てる者たちに捨てられた石、それが要の石となった』

家とは第二神殿の事です。土台を建設していた時に、大きな石が切り出されて来ましたが、どこにも当てはめることが出来ず、捨てられました。しかし神殿の基礎部分の最後の四隅の角に、両側に渡ってはめ込む石が見つからず、そこで試しに、捨ててあった石をはめ込みますと、何とぴたりと、収まったと言うのです。ペテロはさらに続けます。「この方以外には、誰によっても救いはありません。天の下でこの御名の他には、私たちが救われるべき名は、人間に与えられていないからです。」と。》

## ◎お知らせ

※次回礼拝は、9月6日(日)教会にて行ないます。第二礼拝はありません。また、聖書の学びと祈り会は、水曜日に各家庭にて行ないます。